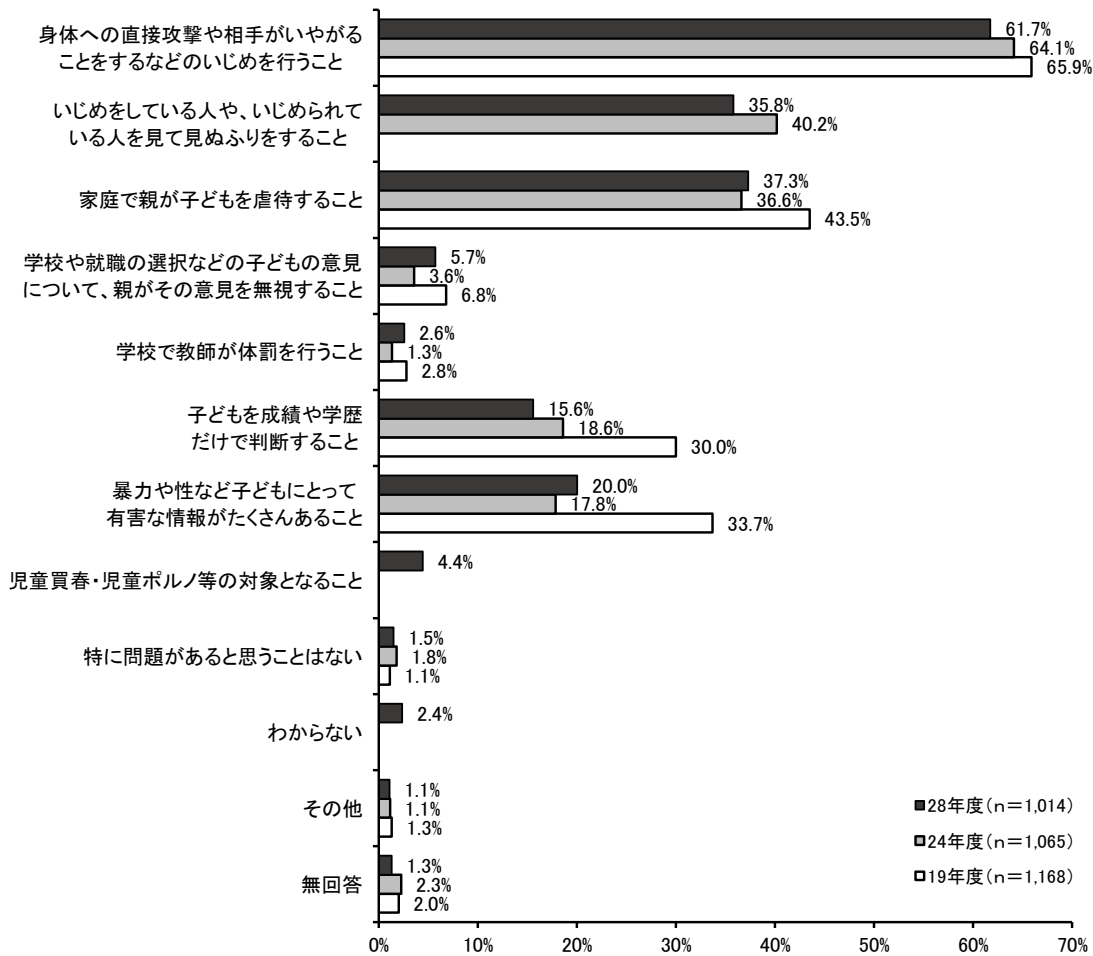


3-3 子どもの人権について

(1) 子どもの人権問題で、特に問題があると思うこと

問8 子どもの人権問題について、特に問題があると思うのはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。



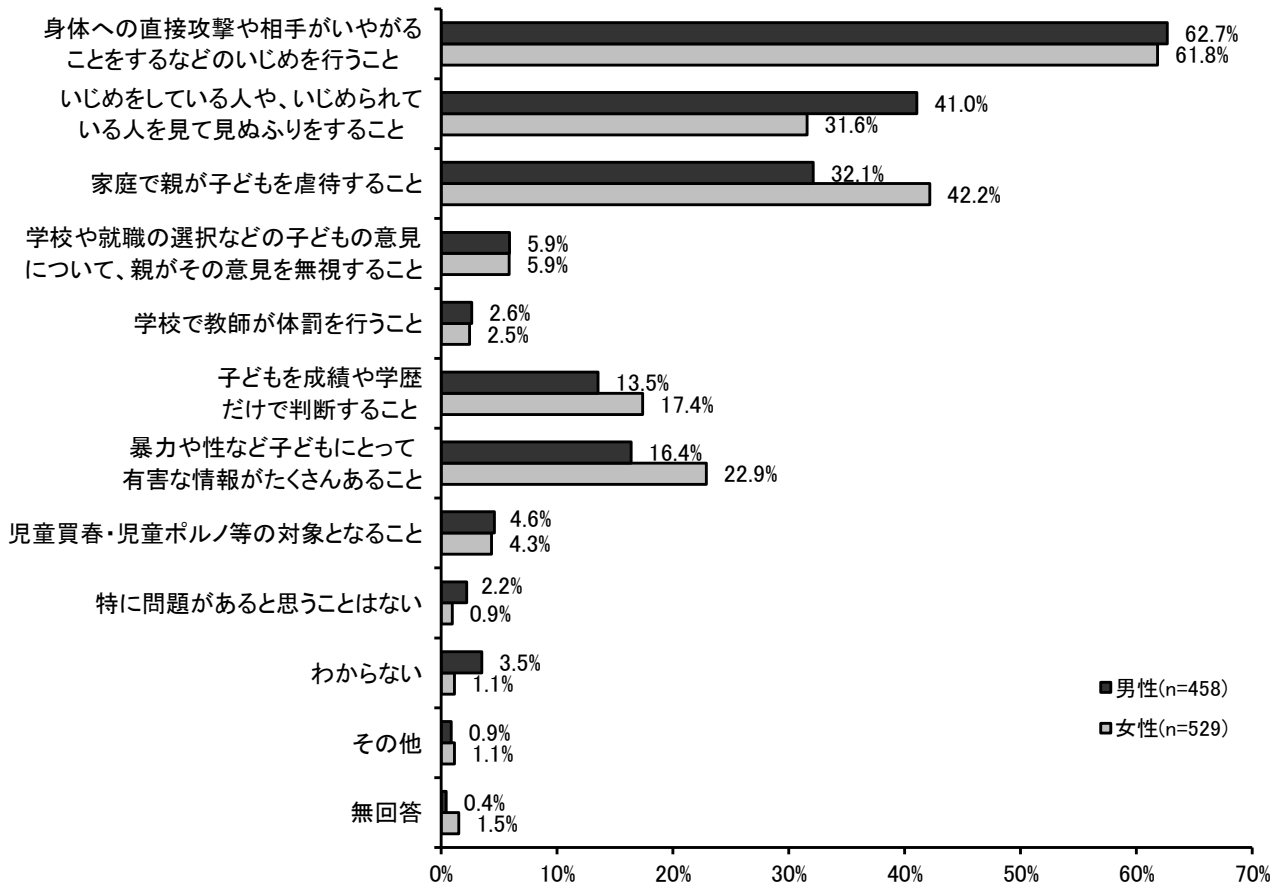
■「身体への直接攻撃や相手がいやがることをするなどのいじめを行うこと」が61.7%で最も高く、次いで「家庭で親が子どもを虐待すること」が37.3%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」が35.8%の順となっている。

【前回・前々回比較】

- 「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」は前回の40.2%より、4.4ポイント増加している。
- 「子どもを成績や学歴だけで判断すること」は前々回の30.0%と比べると、14.4ポイント減少している。

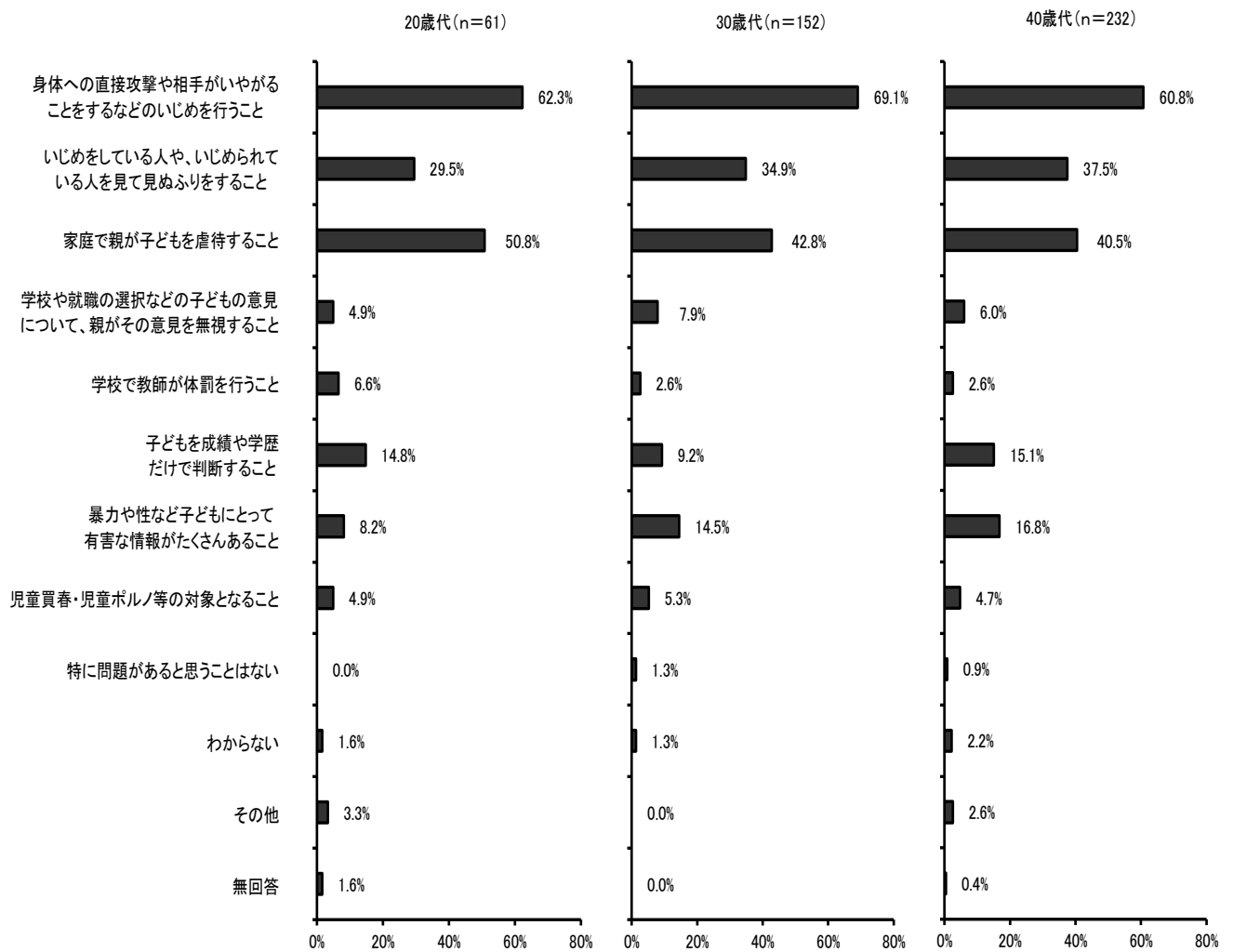
※「児童買春・児童ポルノ等の対象となること」の選択肢を追加したため、正確な比較はできない。

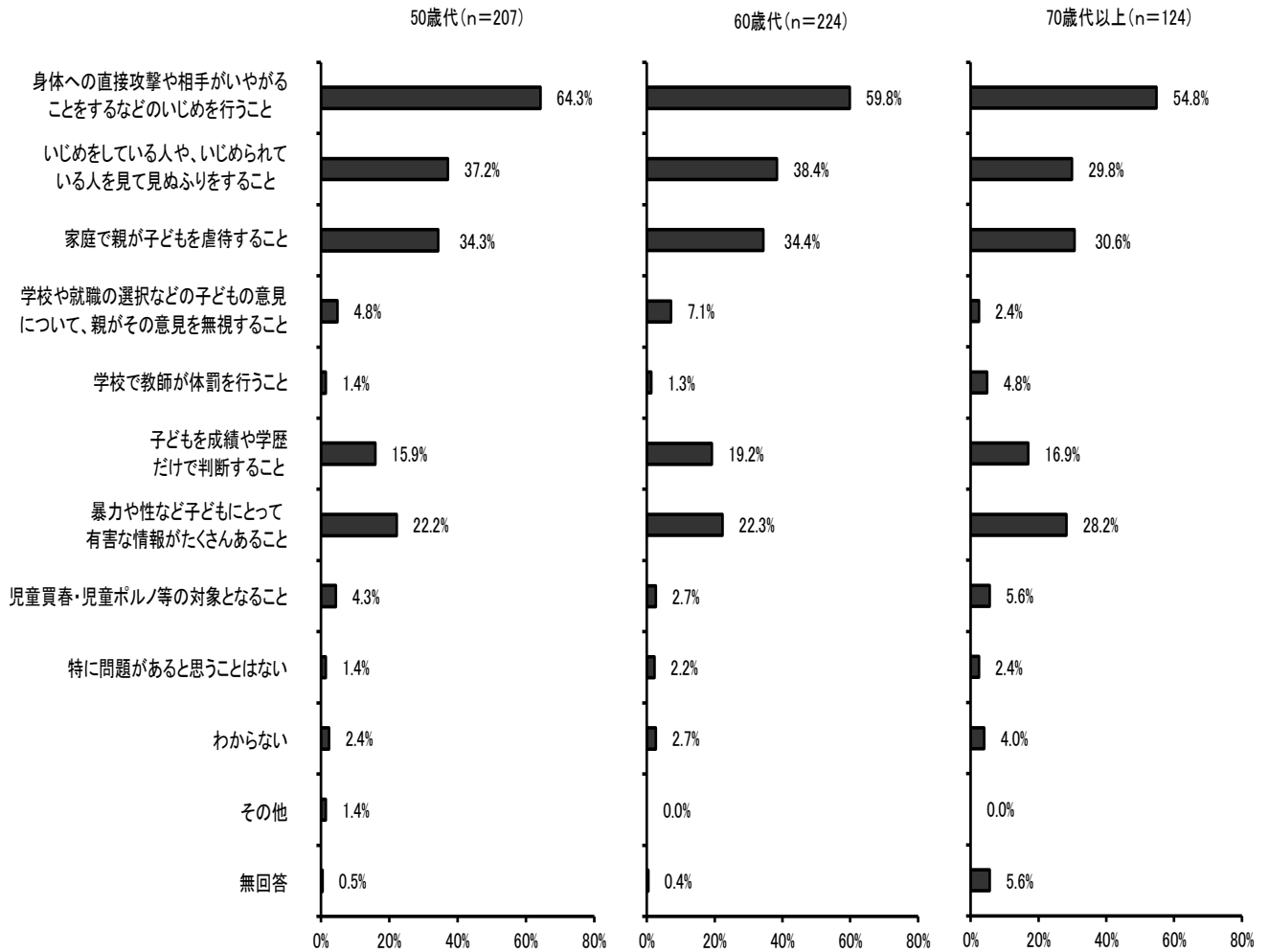
男女別



- 男女共に「身体への直接的攻撃や相手がいやがることをしたり、させたりするなどのいじめを行うこと」が最も高く、次いで「家庭で親が子どもを虐待すること」「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」の順となっている。
- 「暴力や性など子どもにとって有害な情報がたくさんあること」「子どもを成績や学歴だけで判断すること」も他より高くなっており、男性より女性の割合がやや高い。

年代別

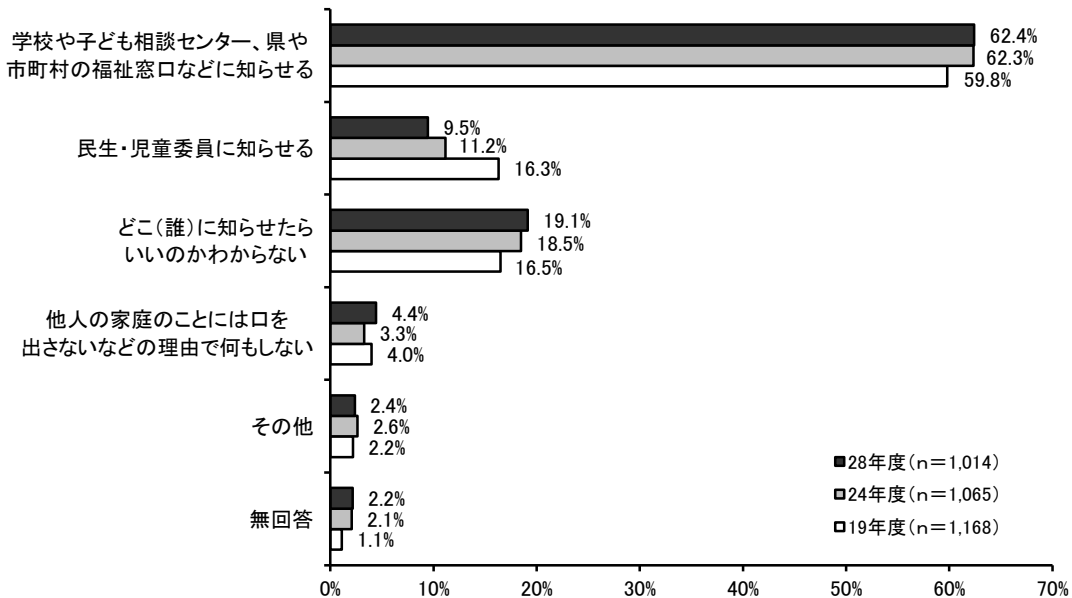




- いずれの年代においても「身体への直接攻撃や相手がいやがることをするなどのいじめを行うこと」の割合が最も高く、30歳代では約7割となっている。
- 「家庭で親が子どもを虐待すること」の割合は、若い年代ほど高くなる傾向がみられ、20歳代が50.8%と最も高くなっている。

(2) 児童虐待を発見したときの対応

問9 あなたが児童虐待を発見したらどうされますか。次の中から1つだけ選んで○をつけてください。

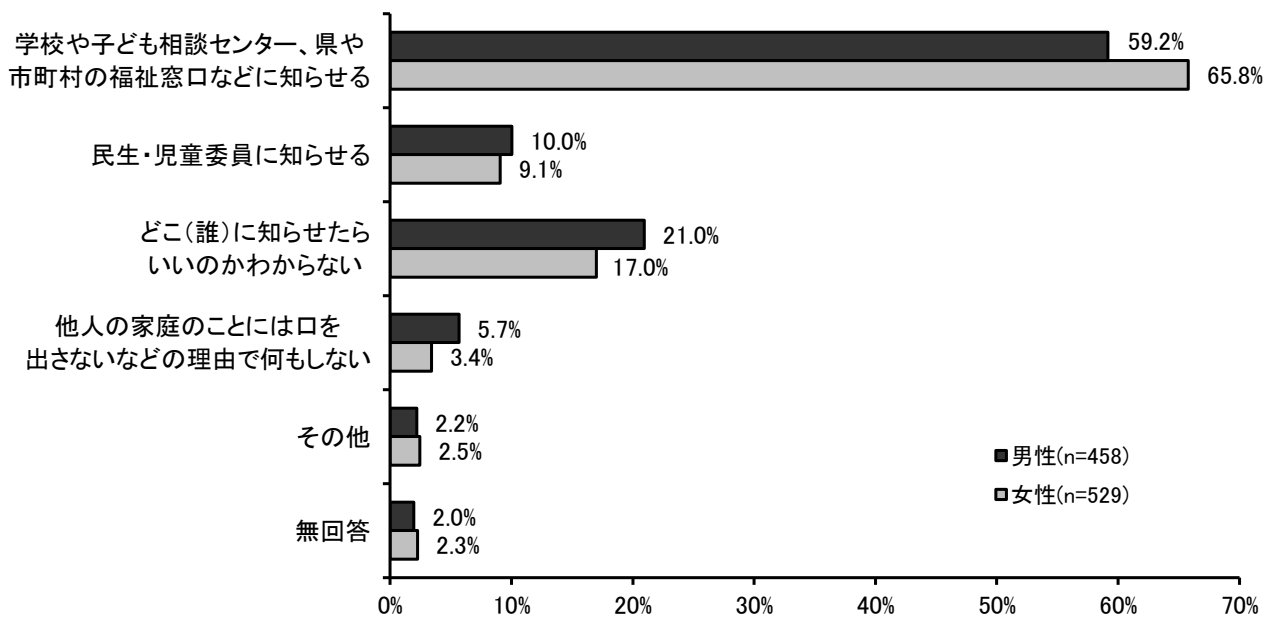


■「学校や子ども相談センター、県や市町村の福祉窓口などに知らせる」が62.4%で最も高く、次いで「どこ(誰)に知らせたらいいのかわからない」が19.1%、「民生・児童委員に知らせる」が9.5%の順となっている。

【前回・前々回比較】

- 「民生・児童委員に知らせる」は前回の11.2%より1.7ポイント、前々回の16.3%より6.8ポイント減少している。
- 「他人の家庭のことには口を出さないなどの理由で何もしない」は前回より1.1ポイント増加している。

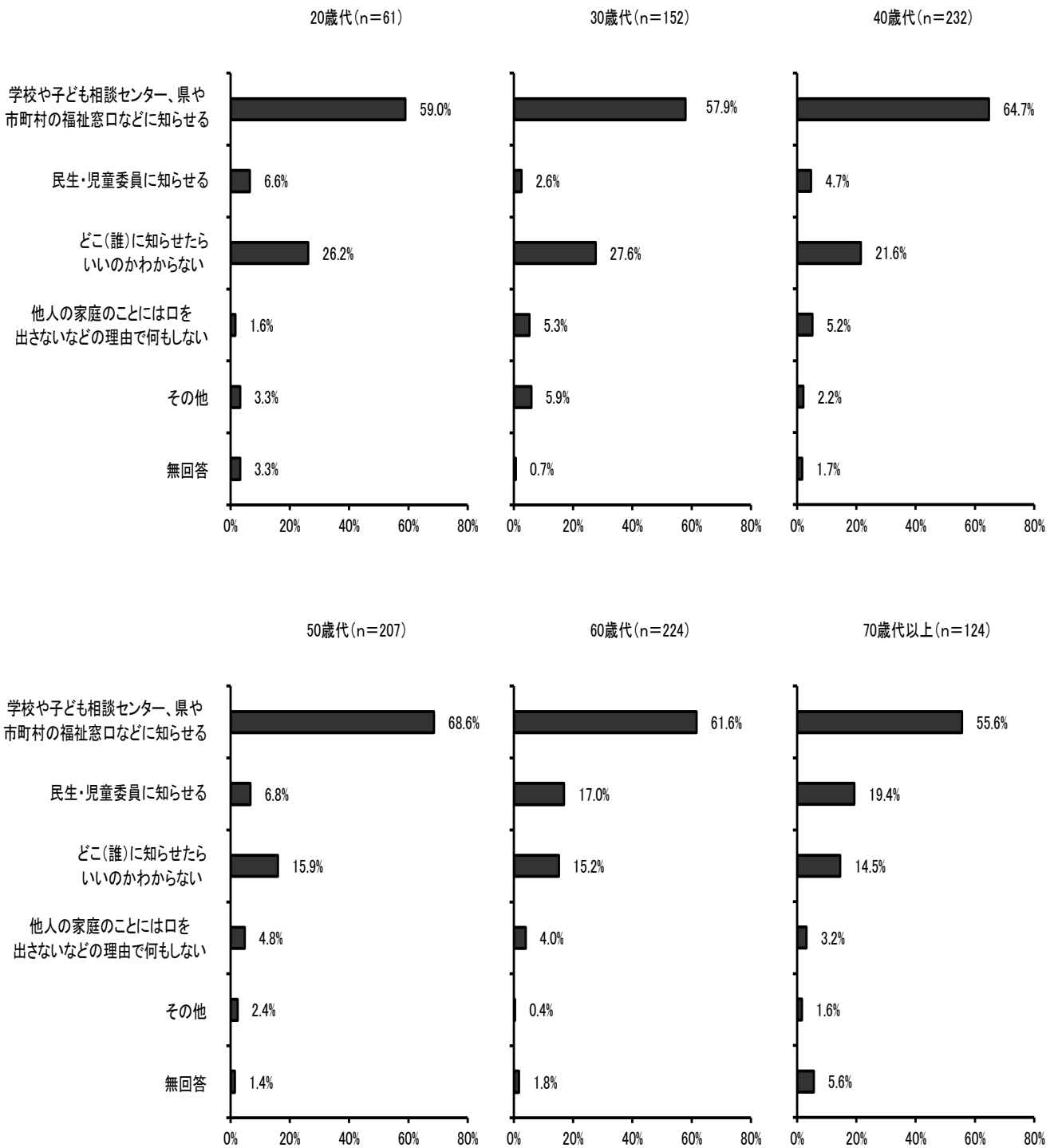
男女別



■男女共に「学校や子ども相談センター、県や市町村の福祉窓口などに知らせる」の割合が最も高く、女性は6割を超えている。男性の59.2%より女性は6.6ポイント高くなっている。

■「どこ(誰)に知らせたらいいのかわからない」は、女性より男性の割合がやや高くなっている。

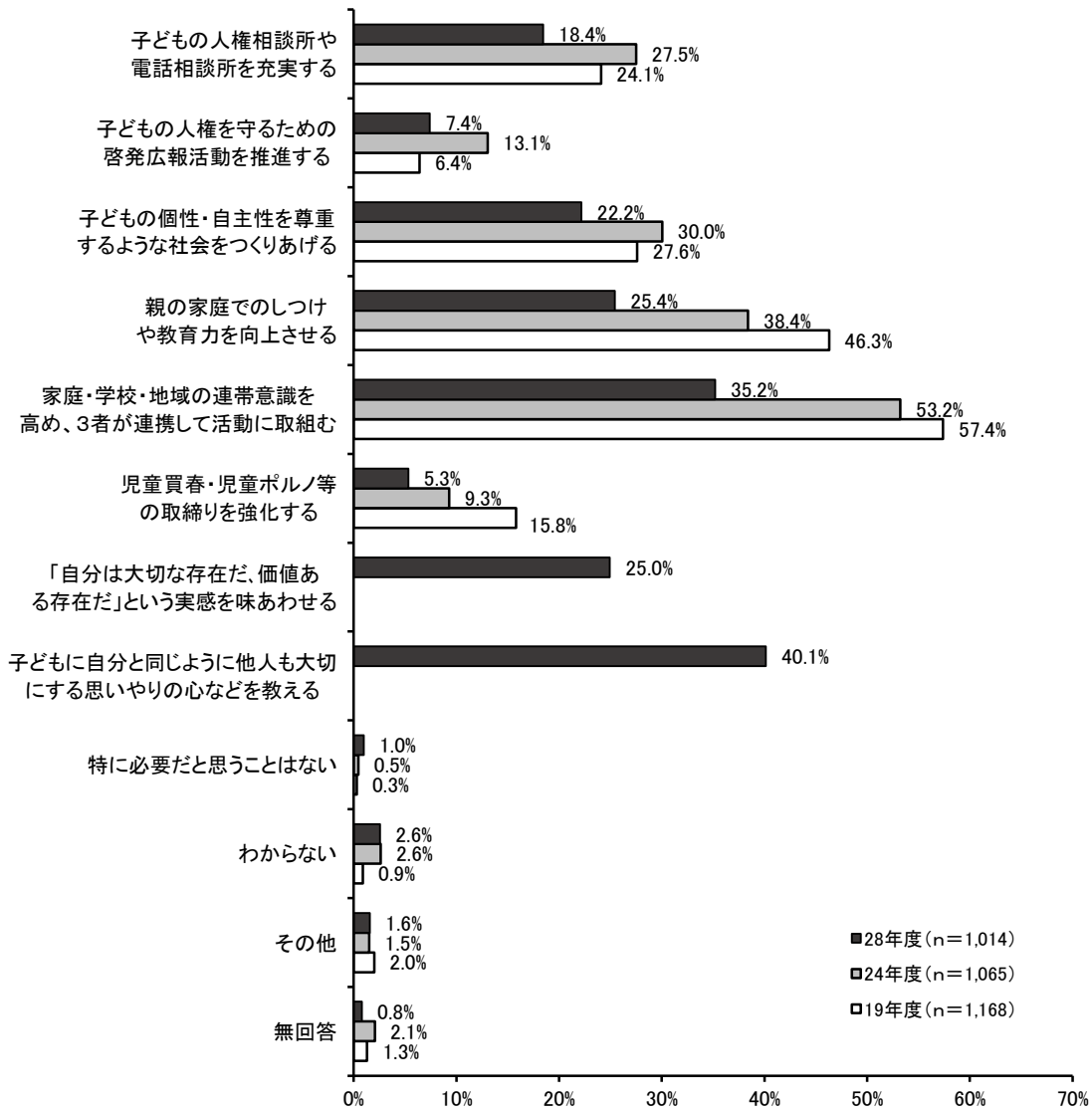
年代別



- いずれの年代においても「学校や子ども相談センター、県や市町村の福祉窓口などに知らせる」の割合が高くなっており、50歳代では約7割となっている。
- 「どこ（誰）に知らせたらいいのかわからない」の割合は、若い年代ほど高くなる傾向がみられ、30歳代では約3割となっている。

(3) 子どもの人権を尊重するために必要なこと

問10 子どもの人権を尊重するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。



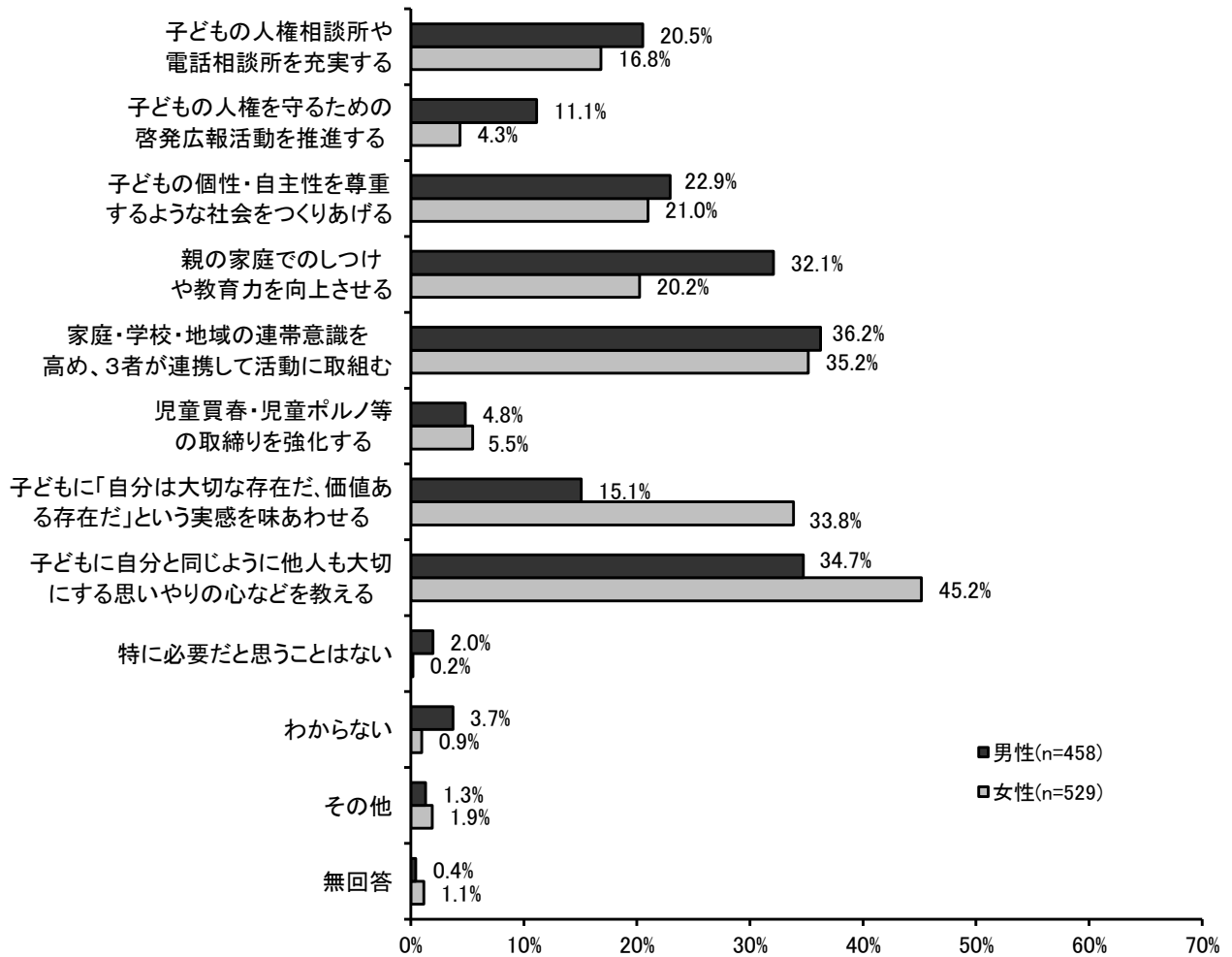
■「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が40.1%と最も高く、次いで「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」が35.2%、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」が25.4%の順となっている。

【前回・前々回比較】

■「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」は前回の53.2%より18.0ポイント、前々回の57.4%より22.2ポイント、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」は前回の34.8%より13.0ポイント、前々回の46.3%より20.9ポイント減少している。

※「子どもに『自分は大切な存在だ、価値ある存在だ』という実感を味あわせる」「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」の選択肢を追加したため、正確な比較はできない。

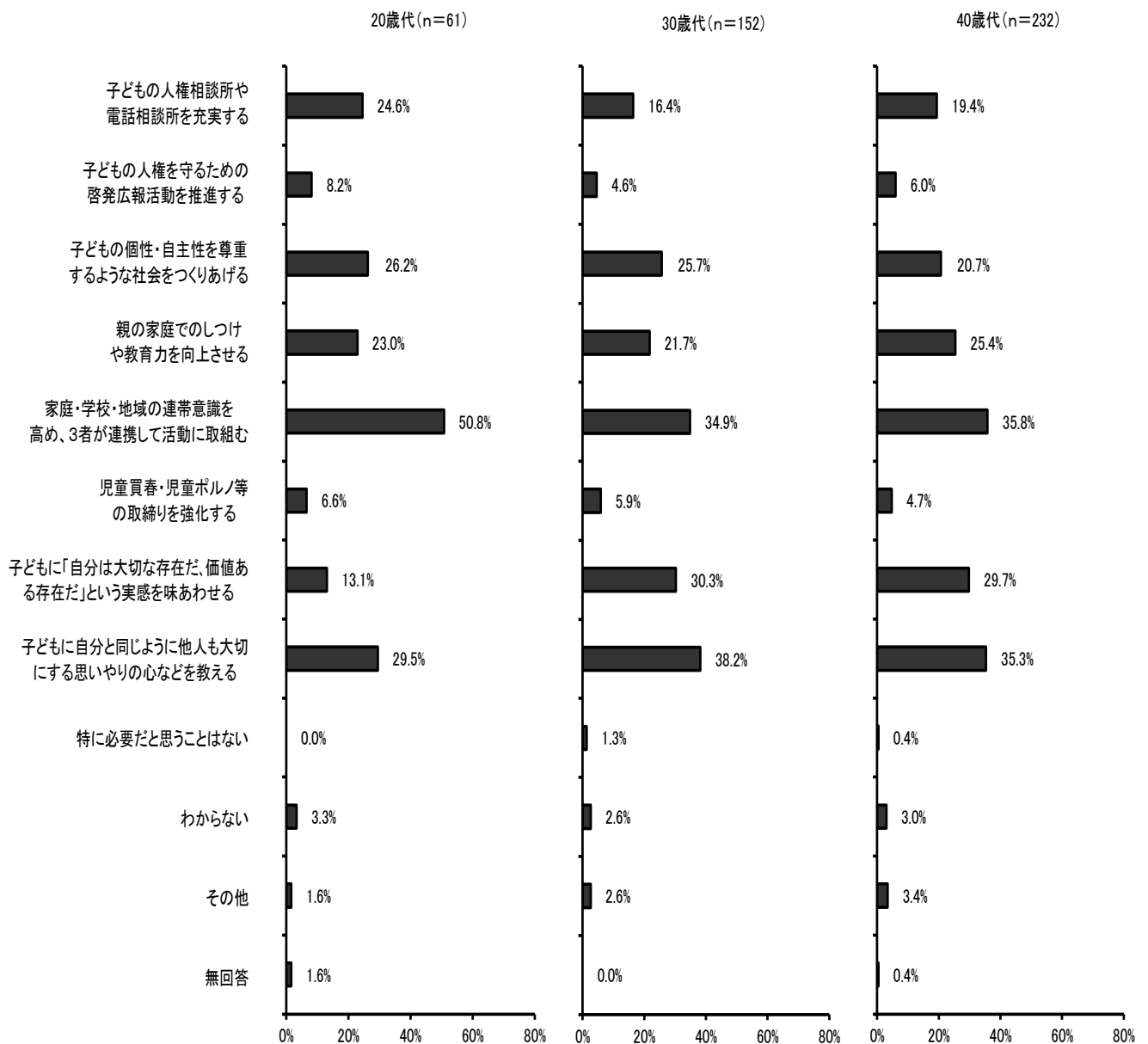
男女別

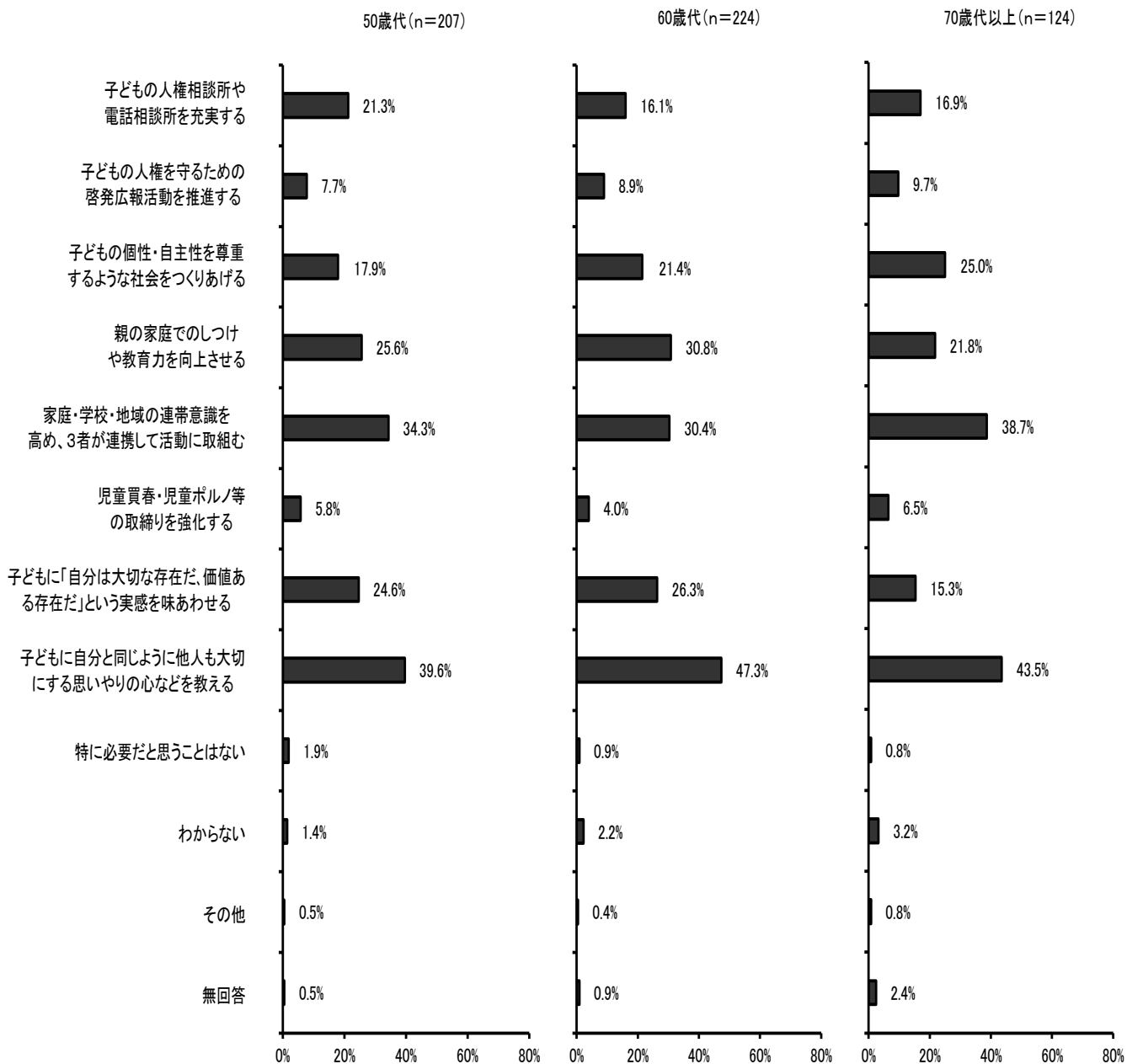


■女性は「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」が45.2%、男性は「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3者が連携して活動に取り組む」が36.2%と最も高くなっている。

■「子どもに「自分は大切な存在だ、価値ある存在だ」という実感を味あわせる」は男性の15.1%より女性が18.7ポイント、「親の家庭でのしつけや教育力を向上させる」は女性の20.2%より男性が11.9ポイント高くなっている。

年代別





■ 20 歳代と 40 歳代は「家庭・学校・地域の連帯意識を高め、3 者が連携して活動に取り組む」、30 歳代と 50～70 歳以上は「子どもに自分と同じように他人も大切にする思いやりの心などを教える」がそれぞれ最も高くなっている。